

松尾中学校国語学習指導案

授業日 平成 29 年 10 月 26 日 (木)
学習者 2 年 A 組
(男子 13 名 女子 12 名 計 25 名)
場 所 2 年 A 組 教室
指導者 教諭 高村 美香子

1 単元名

いにしへの心を訪ねる ― 昔のものの見方や考え方に触れ、古典に親しむ
仁和寺にある法師―「徒然草」から 兼好法師 (国語 2 光村図書)

2 単元の目標

本単元で扱う重点指導事項は、「文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをもつこと。」である。そこで、今回は、「徒然草」を扱う。そのためには、まずは古文の内容を読み取り、自分の実体験と照らし合わせることが必要である。今回学習する『徒然草』の各段が、事実とそれに基づいた筆者の考えという二つの部分から成り立っていることに気づかせ、そこに述べられている筆者の感想はどのような事実から導き出されているのかを読み取らせたい。そうすることによって表面的な文章だけではなく、筆者のものの見方や考え方が理解できると思われる。

3 単元について

(1) 生徒観

学習全般について関心が高い生徒が多く、国語についても集中して授業に臨もうとする態度が見られる。しかし、古文に対する抵抗感があり、内容が分からなくて難しいという印象を払拭できていない。

4 月に行われた教研式 N R T では、大領域別集計では、「伝統的な言語文化と国語の特質」が、正答率 42.6、全国比 98 とやや低い結果であった。また、中領域別集計では、「表記や語句に注意し書くこと」が 38.4 で全国比 88、「語句や表現技法についての理解」が、48.8 の正答率で、全国比 98 という結果である。これは、古文の読みにくさ、解釈の難しさからくる古典への苦手意識が一因ではないかと思われる。そこで、兼好法師の現代に通じる感覚を共有することで、古典作品に流れる魅力を感じ取り、苦手意識をできるだけなくした状態で古典学習に臨ませたい。

(2) 教材観

『徒然草』は、『つれづれなるままに』という冒頭部分が有名な古典の随筆である。内容は仏教的なものから、教訓・処世術のようなもの、人間の心理・行動について書かれたものなど、内容豊かである。「古典に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物や作者の思いなどを想像すること」(2 年「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」のア(イ))によって、読み手としての立場から人間、社会、自然などについて考え、自分の意見を持つことができる教材である。そして、筆者の兼好法師に共感したり反発したりすることを通して、より古典を身近なものとして味わい、古典の世界に親しむことができる作品であると考えた。この教材は作者である兼好法師の考えが端的に書かれ、具体例が分かりやすく書かれている。このことで、自分の生活経験などと重ね合わせて、読み深めることが可能である。

本単元では、自分の知識や経験と関連付けて感想をまとめ、交流して深めることで、現代に通じる人間観・人生観に共感したり、反論しながら、「ものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをもつこと(読むこと(エ))」に取り組ませたい。

(3) 指導観

生徒はこれまで「枕草子」の第一段を学習し、現代にも通じる日本人の美意識や季節感を読み味わっている。本教材も、非常に読みやすく分かりやすい内容であり、簡潔な文章で表現された説話的なおもしろさに興味を持たせるのに適した教材である。

また、心に取り込んだ外界を内省的に描く作品から、現代社会でも通用する人間観、

人生観などを、自分の経験に結びつけさせ、古典を身近に思い、親しむ態度を育てたい。

本教材『徒然草』序段、第109段、第11段、85段、92段、236段を教科書の作品に追加し、兼好法師の教訓を、これまでの自分の生活経験に照らし合わせて、自分なりの考えや思いを自分の言葉で表現させ、交流させたい。

4 評価規準

ア 関心・意欲・態度	イ 読むこと	ウ 伝統的な言語文化
○古文や漢文について感想をもち、交流して考えを深めようとしている。	◎古文や漢文に表れているものの見方や考え方について、自分の知識や経験と関連付けて感想をまとめ、交流して深めている。 【読むこと エ】	○「徒然草」の古典における位置づけを理解し、内容に親しんでいる。 【伝国ア (ア)】

5 題材の指導・評価計画

次	小単元名・ねらいなど	学習活動	評価規準	関	読	伝	書
1	「徒然草」特有の表現やリズムに注意して朗読し、作者の考えに触れる。	①「徒然草」の序段を繰り返し読み、学習の見通しを立てる。ゴールを示しておく。 ②「徒然草」の書かれた時代背景や、兼好法師について知る。他の章段も紹介する。 ③「仁和寺にある法師」を朗読する。相互読みや、現代語訳と原文を読み合ったりする。	「徒然草」に興味を持ち、朗読などを通じて内容を理解しようとしている。 【関心・意欲・態度】 ・古文特有の言葉遣いやリズム感を捉えながら、朗読しようとしている。 【伝国ア (ア) (イ)】	○		○	
2	「徒然草」の場面の状況や登場人物の行動に着目し、作者のものの見方や考え方を読み取る。	①「仁和寺にある法師」について、傍注を手がかりにあらすじをつかみ、法師がどのように勘違いをしたのか捉える。	あらすじをつかみ、作者のものの見方や感じ方を捉えようとしている。 【読むイ・エ】		○		

		<p>②法師がなぜ失敗したのかについて考える。法師の言動に対する作者の考え方に触れる。</p> <p>③法師の人物像について、根拠を明確にして話し合う。</p>					
3 本 時	<p>「2A版徒然草」を作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 兼好法師の考え方をもち、自分の体験を文章にするために内容を考える。 「2A版徒然草」を作成し、交流する。 	<p>①筆者のものの見方や考え方に対して、自分なりの考えをもつ。</p> <p>②「徒然草」の教訓を自分の体験と照らし合わせ、文章にまとめ、交流する。</p>	<p>「徒然草」の教訓を自分の経験に照らし合わせ、文章にしている。</p> <p>【書くイ・ウ】</p>	○	○		

6 本時の指導

(1) 本時の指導目標

文章に表れている兼好法師の見方や考え方について、自分の経験と関連付けながら読み取らせる。

(2) 本時の評価規準

- 「徒然草」の教訓を自分の体験と照らし合わせて、自分の考えを文章にまとめようとしている。 **【関・意・態】**
- 「徒然草」の文章を読んで、自分の経験と関連付けて感想をまとめ、交流して深めようとしている。 **【読むこと エ】**

(3) 指導構想

前時の学習で確認した徒然草の内容を想起した後、他の章段を読み、内容を確認する。それから、自分の体験と関連付けて、考えたことを文章にする。手立てとして、文章のパターンを提示し、参考にさせる。その後、交流の時間を取り、お互いの文章を交流し合い、深めさせる。

(4) 本時の展開

段階	学習活動	学習内容	留意点・評価
導入 10分	1 前時を振り返る。 * 日付・教材名を板書。	【前時の振り返り】 音読	・前時に確認した内容を黒板に掲示し想起させる。 【関心・意欲・態度】 ・観察 * 学習の見通しを提示。
	2 本時の学習課題を確認し学習の見通しを持つ。 * プリント配布。 * 学習課題を掲示。	【本時の見通し】 「徒然草」の読み取りを通して、自分の体験と関連付けて感想をまとめ、交流することを確認する。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> 学習課題 兼好法師の考え方を捉えて、2-A版徒然草を作ろう！ </div>			
展開 45分	3 「徒然草」の表現の特徴を確認する。 * 板書。紙板書を準備。	【前時の復習】 組み立て（構成） 古典文法（係り結び、ずざり）	・便覧の活用を指示。 ・例を手立てとして提示 ・机間指導をして、書き進められていない生徒に助言する。
	4 自分の体験と照らし合わせて、自分の考えを書く。（15分） 5 各グループで交流する。（20分）	交流の方法を説明する。 【交流】（グループ） 自分の文章を発表する。 ↓ 自分の文章について助言をもらう。 【視点】 古文と体験が一致しているかどうか。	
終末 5分	7 本時の学習を振り返る。（5分） * プリントを回収。	【振り返り】 ・自分で書いてみて、現代に通じる。昔の人から学ぶことがあると感心した。 ・〇〇さんの内容に共感した。	・プリントに記入させる。

板書計画

<p>* 見通し・トボ時のド復習内容を掲示</p>	<p>振り返り</p>	<p>自分の考え</p>	<p>自分の体験</p>	<p>古文</p>	<p>2 A版 徒然草</p>	<p>* 学習プリントを拡大</p>	<p>2 兼好法師の考えを捉えろ。</p>	<p>学習課題</p>	<p>仁和寺にある徒然法師から</p>	<p>10 / 26 (金)</p>
---------------------------	-------------	--------------	--------------	-----------	-----------------------	--------------------	-------------------------	-------------	---------------------	--------------------

松尾中学校授業改善方策シート

実施年月日	平成29年10月26日(木)	教科	国語	実施学年	2学年
職名	教諭	高村 美香子			
単元名	いにしえの心を訪ねるー昔のもの見方や考え方に触れ、古典に親しむ 仁和寺にある法師ー「徒然草から」(国語2 光村図書)				
教科書のページ	p 142 ~ 143	指導要領のページ	p 54、p 58		
指導要領の内容・項目など	読むこと エ 文章に表れているもの見方や考え方について、知識や体験と自分の考えをもつこと。				
本時の目標	文章に表れている兼好法師の見方や考え方について、自分の経験と関連付けながら読み取らせる。				
本時の評価	観点	関心・意欲・態度	評価規準	兼好法師の教訓に対する、自分の考えを持ち、生活体験と照らし合わせ、文章にまとめようとしている。	
		読むこと		兼好法師のもの見方や考え方について、自分の知識や経験と関連づけて感想をまとめ、交流している。	
指導者の工夫 (意図) (具体的な手立て)	1 文章を書くときに、生徒の書きにくさが軽減できるよう例文を提示する。				
	2 グループでの交流の場面で、活性化するようにアドバイスを工夫する。				